

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道11号 おおちしろとり 大内白鳥バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：香川県 東かがわ市伊座 至：香川県 東かがわ市小砂	延長	9.2km		
事業概要					
一般国道11号は、徳島市を起点とし高松市を経て松山市に至る四国の3県都を瀬戸内沿いに連絡する延長約231kmの主要幹線道路であり、経済の交流と地域発展の大動脈であるとともに、通勤・通学等日常生活に欠かせない生活道路としての役割も持つ重要な路線である。					
大内白鳥バイパスは、現道（一般国道11号）で発生している慢性的な交通渋滞や、それに伴う事故多発区間の解消、さらに交通流の円滑化による都市及び病院等の公共施設のアクセス性の向上などにより、地域の文化・経済・産業の発展に資することを目的とした延長約9.2kmのバイパス道路である。					
H12年度事業化		H16年度都市計画決定		H18年度用地買収着手	
H20年度工事着手					
全体事業費	約230億円	事業進捗率	約28%	供用済延長	0.0km
計画交通量	5,200～23,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 2.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 116 / 180億円 (事業費：107/171億円 維持管理費：9.0/9.0億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 325/325億円 (走行時間短縮便益：286/286億円 走行経費減少便益：33/33億円 交通事故減少便益：5.5/5.5億円)	基準年 平成21年	
感度分析の結果					
・交通量変動：B/C= 3.1 (交通量+10%) B/C = 2.5 (交通量-10%) ・事業費変動：B/C= 2.6 (事業費+10%) B/C = 3.1 (事業費-10%) ・事業期間変動：B/C= 2.6 (事業期間+2年) B/C = 3.0 (事業期間-2年)					
事業の効果等					
大内白鳥バイパスは、東かがわ市街地の交通混雑を解消し、交通安全を確保することや、都市間のアクセスを向上し、日常生活の利便性向上を支援するとともに、救急医療や災害時の緊急輸送を支えるなど重要な役割を担う。					
①円滑なモビリティの確保					
・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる【902千人・時間/年⇒222千人・時間/年 約75%削減】 ・現道等において旅行速度の大幅な向上が見込まれる【混雑時：5.0km/h⇒21.0km/h】 ・現道等における混雑緩和により定時制が見込まれるバス路線が複数存在する ・現道等における混雑緩和によりJR三本松駅への所要時間短縮が見込まれる【10⇒6分】 ・東かがわ市から高松空港への所要時間短縮が見込まれる【54⇒49分】					
②物流効率化の支援					
・東かがわ市から重要港湾高松港への所要時間短縮が見込まれる【44⇒39分】 ・東かがわ市から高松卸売市場や京阪神方面への所要時間短縮が見込まれることから、特産品(引田鰯, 冬レタス等)の流通向上、鮮度維持による市場価値向上、市場拡大による地場産業発展が期待できる					
③国土地域ネットワークの構築					
・東かがわ市から日常活動圏中心都市高松市への所要時間短縮が見込まれる【41⇒37分】					
④個性ある地域の形成					
・東かがわ市が計画している新しいまちづくり計画(シビックコア整備事業、三本松駅周辺整備事業など)を支援 ・東かがわ市内の観光施設(ベッセルおおち(22万人/年)、讃州井筒屋敷(11万人/年)等)へのアクセス向上が見込まれることから、地域観光活性化が期待できる					
⑤安全で安心できるくらしの確保					
・東かがわ市から三次医療施設香川大学医学部付属病院やその他の高次救急医療施設への所要時間短縮が見込まれる【9⇒5分】					
⑥災害への備え					
・災害時等に第1次輸送確保路線に指定されている一般国道11号、高松自動車道の代替路線として機能する					
⑦地球環境の保全					

・CO2排出量が約18,491t/年（約7.6%）削減【244,063t/年⇒225,572t/年】

⑧生活環境の改善・保全

- ・NO2排出量が約 105.4t/年（約47%）削減【225.3t/年⇒119.9t/年】
- ・SPM排出量が約 9.8t/年（約46%）削減【21.5t/年⇒11.7t/年】
- ・現道の交通量減少、周辺地域の交通円滑化により、騒音レベルの改善が見込まれる

⑨その他

- ・さぬき東街道（県道高松長尾大内線）との一体的整備により、東讃の大動脈としてのネットワーク機能が期待できる

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・本事業の推進にあたっては、東かがわ幹線道路整備促進期成同盟会等から積極的な要望活動を受けている。

県知事の意見：

- ・一般国道11号は本県を東西に貫き、徳島・愛媛両県に通じる本県の幹線道路であり、経済の交流と地域発展の大動脈であるとともに、生活道路としての役割を持つ重要な路線である。しかし、東かがわ市付近においては、交通混雑をきたし、日常生活にも影響を及ぼしている。（H17センサス交通量：約24,000台/日）
- ・大内・白鳥バイパスは、慢性的な交通渋滞を緩和するとともに、生活環境の向上や東かがわ市の振興を図る上で、重要な事業となっており、現在、国道318号から県道水主三本松線間の第2工区（L=3.3km）を中心に事業が進められている。
- ・今回の事業評価監視委員会において、大内・白鳥バイパスについては、必要性が認められ「事業継続」となっており、その評価に基づき、早期に全線供用が図られることをお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
- ・国の予算が限られる中、事業期間の短縮に向けた検討や取り組みが必要ではないか。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成13年 3月：高松自動車道（板野IC～津田東IC）が開通
- ・平成14年 4月：津田町・大川町・志度町・寒川町・長尾町の5町が合併して「さぬき市」となる
- ・平成14年 7月：高松自動車道（鳴門IC～板野IC）が開通し、神戸淡路鳴門自動車道と接続
- ・平成15年 4月：引田町・白鳥町・大内町の3町が合併して「東かがわ市」となる
- ・平成17年 9月：高松市に塩江町を編入し、新「高松市」となる

事業の進捗状況、残事業の内容等

今後の見通し：用地買収・工事等を推進

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

供用に向けて、工事・用地の推進を図る

施設の構造や工法の変更等

プレキャスト製品の採用やトンネル内側溝構造の見直し等によりコスト削減を図る

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業効果及びコスト削減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。